

一仲間とともにつながる学校へー 2026.1.26

1/16に府のセンターで「ICTを活用した授業づくり」の研修に参加してきました。この研修は年間3回連続で行われるもので、講義と現在の課題を共有する対話の回、授業の相互参観の回、実践交流と来年度への目標設定の回で計画されています。

1学期に参加したときは、自分自身がまだICT利活用についてのイメージが持てておらず、この研修に対して、動機づけが低かったのを覚えています。（研修担当の方、申し訳ないです）学習者の主体的な学び（本校では「子どもが主語の授業」ということもあります）が求められる今、授業者（教員）のプラン通りに授業を進行するのではなく、子どもたちが生涯にわたって自ら学んでいく力につけるため（それが将来の幸福感=ウェルビーイングにつながる）学校教育の中で、「学び方（学びの調整のしかた）を学ぶ」、そしてそのためにICTがツールとなる、という話で、ICTツールの使用が目的ではないことは、研修会場の統一見解であることは間違いありません。

しかし、学校や自治体によって取り組みは本当に様々で、タブレットの使用をとにかくしよう、というところから、学校全体で単元ごと生徒に委ねているが学校まで様々なようです。

子どもたちがどんな力をつけて卒業していくことが望ましいのか、私たちもじっくり考える時間をもちたいなど思った研修でした。

授業観の転換は分厚い壁かもしれないけれど、その先にあるのは、子どもたちの明るい未来だと信じて授業観の転換を推進します。

木村先生講義資料



## 「やらされ感」から「学ぶ楽しさ」へ！自己調整学習で主体的な学び手を育てる

**受動的な学び**

やられ感

**自己調整学習**

**主体的な学び**

学ぶ楽しさ

**自己調整学習って何？**

学習者が学びの「主役」になる力  
自分を客観視し、学習方法やモチベーションを調整する能力です。

「自由進度学習」と「自己調整学習」は違う！

自由進度学習	自己調整学習
主語は誰？	教師(授業の設計者)
意味は？	学習者が自分のペースで進められる授業形態。
学習者(学びの実行者)	学習者が自ら目標を立て、計画・実行・調整する学び方。

**「調整する力」をどう育てる？**

生徒が「調整」すべき5つの要素

具体的な「やり方」を教えることが重要  
目標の立て方や振り返り方を、教師が手本を見せて丁寧に指導します。

成功の鍵は「Beゴール」と「Doゴール」

そのための行動

手本を見せる

できるようになりたいこと

Beゴール

Doゴール

成功の鍵は「Beゴール」と「Doゴール」